

震災慰霊碑 11日除幕式

東日本大震災犠牲者の慰霊碑の除幕式が11日に名取市閑上地区で行われるのを前に、仙台高専の学生が会場のレイアウトを考えたり、花で飾ったりする計画を進めている。式典終了後も慰霊空間の整備も公園に移す計画。今回は仮

名取・閑上

に取り組む方針。行政に全て任せるのではなく、市民参加で心が安らぐ祈りの場をつくりたいという。

慰霊碑は名取市が日和山向かいの市有地に建てる。将来は閑上地区内に震災メモリアル公園を整備し、慰霊碑など

祈りの空間 花で安らぎ

も公園に移す計画。今回は仮の建立となる。
 一帯は災害危険区域に指定され、現在も荒涼とした風景が広がる。市内にキャンパスがある仙台高専建築デザイン学科の7人が「市民が手を合わせるのにふさわしい環境にしたい」と、市に協力を申し出た。
 5月に準備を始め、式典会場に扇状に椅子を並べるなどのレイアウトを決めた。雰囲気をもくもくするため300本近いプランターの花で飾る計画。花き農家のアドバイスを受けながら花の種類や配置を考えている。

仙台高専生が演出



今秋からは慰霊碑の周辺に緑化に取り組む方針。できる花壇を整備するなど継続的なだけ多くの市民を活動に巻

慰霊碑が建立される現場で花き農家（右端）と打ち合わせをする仙台高専の学生ら

き込み、メモリアル公園を整備する際には、市民総ぐるみの公園造りになるような機運を醸成したいという。必要な資金は、インターネットで出資を募る「クラウドファンディング」で確保する計画だ。

4年の星祐希君（19）は「閑上の復興は進んでいないが、明日への希望が感じられる場所にした」と意気込む。指導する小地沢将之准教授は「多くの方の思いが詰まった慰霊空間になってほしい。こうした活動が少しでも復興の足掛かりになればいい」と期待する。

「3・11」描き 花苗で慰霊

名取仙台高専生 500株配布

東日本大震災の発生から4年となる11日、仙台高専の学生が名取市閑上の慰霊碑前にチューリップの苗を並べて「3・11」の文字を描く。仮設住宅で住民と一緒に育てた苗で、当日は慰霊に訪れた人々に無料で配る計画だ。

建築デザイン学科の学生

とNPO法人「コミュニケーション」が取り組む「明日へ進もう！ここからプロジェクト」の一環。慰霊空間を花と緑で彩ろうと、東京のボランティア団体を通じて提供された球根を市内の植松入生仮設住宅の敷地で住民と一緒に育ててきた。

全部で500株あり、こ



花苗を竹筒の容器に移し、慰霊碑前に並べる準備をする学生ら

のうち300株を竹筒の容器に入れて11日に並べる。保管する200株は午前11時ごろから会場配布。午後3時ごろからは文字となつた300株も配る。

指導する小地沢将之准教授は「花苗には学生や支援者の復興への願いが込められている。訪れた方々の心を少しでも癒やせれば」と話している。

▲河北新報 2014年8月4日

◀河北新報 2015年3月11日